

寄稿

断想二題

—「新老人の会」と
金大中韓国元大統領のこと—

儀我壮一郎（中45回）



■ 新老人の会のこと

今年の12月7日、私は満90歳になります。高田中学在学中には、50歳位の人を見ると、随分高齢の方のように思いました。父が50歳で死去したので、その印象が強かったのかも知れません。自分が90歳になるなど、思いもよらぬことでした。

ところで、現在、75歳以上を「公式」に「後期高齢者」と呼んでいるなかで、そうではない、75歳以上を「新老人」と名付けて元気に満ちた会を創立しようという意気込みで、2000年9月に発足したのが、「新老人の会」です。提唱者である日野原重明医師（現在97歳）を会長として、数十人から始めたのですが、会員は着々と増加し、今や約1万名になりました。

会員はシニア会員（75歳以上）、ジュニア会員（60-74歳）、サポート会員（20-59歳）に分かれていますが、世代を超えて、学び

あい、励ましあって前進中です。全国に31の支部があり、本部には約30のサークルがあります。各支部でも、地域の実情に応じたサークルが活動しています。シニア・ジュニア会員の年会費は1万円です。

新老人運動の5つの目標は、次の通りです。

- ① 自立
- ② 世界平和
- ③ 自分を研究対象に（自らの健康情報を、ヘルス・リサーチ・ボランティアとして研究団体に提供し、老年医療の発展に寄与する）
- ④ 会員の交流
- ⑤ 自然に感謝

運動の中で、実りある人生のために、第一に愛し愛されること、第二に創（はじ）めること、第三に耐えること、第四に子どもたちに平和と愛の大切さを伝えることを、常に心がけます。

私は、創立以来の本部世話人の一人として、また、2009年からは、サークルの一つである「世界を語る会」の世話役として微力を尽くしてきました。今後も一層、力を入れたいと心がけています。

ところで、高田中学校・高田高等学校卒業生の年齢を見て、驚きました。中卒はも

とより、高卒の多くの同窓生も、60歳以上のジュニア会員、75歳以上のシニア会員として入会していただく可能性があります。できれば、多数参加していただきたいと希望します。

■ 金大中韓国元大統領と「光州事件」

1993年3月、金泳三大統領就任直後の韓国を、専修大学の調査団の一員として訪問しました。

その後16年を経て、2009年3月、李明博大統領が在職中の韓国を、専修大学の調査団の一員として再訪し、ソウル、光州、釜山などで多くを学びました。とくに、光州は、帰国後の8月18日死去した金大中元大統領にとって、きわめて重要な意味をもつ都市であり、「光州事件」について多面的に調査・学習しました。金大中大統領の歴史的地位を考察するために、まず、韓国の大統領について概観しましょう。

1948年8月15日の「大韓民国」独立宣言以来、大統領となった人物は次の10名であり、朝鮮民主主義人民共和国の政権は、金日成・金正日の二名が掌握してきました。日本の首相の数との比較は、ここでは省略します。

- ① 李承晩（1887年生れ）：初代、第2代、第3代
- ② 尹潽善（1897年生れ）：第4代
- ③ 朴正熙（1917年生れ）：第5代、第6代、第7代、第8代、第9代
- ④ 崔圭夏：第10代
- ⑤ 全斗煥：第11代、第12代

- ⑥ 盧泰愚：第13代
- ⑦ 金泳三（1928年生れ）：第14代
- ⑧ 金大中（1924年生れ）：第15代
- ⑨ 盧武鉉（1946年生れ）：第16代
- ⑩ 李明博（1941年生れ）：第17代

金大中は、1924年1月6日、朝鮮半島の西南端の港湾都市木浦からさらに離れた荷衣島という離島で、父・金雲植、母・張守錦の次男として生まれました。父は、島の有力者の一人でした。島にはまだ公式の学校は無く、金大中は「書堂」で学びました。

金大中は、木浦商業高等学校を卒業後、日本人の経営する海運会社に勤務しました。日本の敗戦後、日本人たちは朝鮮半島から脱出し、金大中がこの会社の「経営者」に選ばれましたが、曲折を経て、金大中はこの会社を離れ、自ら「木浦商船」という海運会社を始め、順調に発展しました。

1 金大中第一の危機

1950年6月25日、朝鮮戦争開始。

7月中旬、木浦に帰郷していた金大中は、「資本家で右翼反動分子」として北朝鮮支配下の警察に連行され、9月18日には、他の囚人とともに「処刑場」へと運ばれました。その3日前、米軍は仁川への上陸作戦に成功、処刑予定の9月18日夜、北朝鮮軍は木浦から突然撤退し、金大中は九死に一生を得ました。

2 金大中第二の危機

1971年4月の第7代大統領選挙で、朴正熙（民主共和党）634万票、金大中（新民党）539万票となり、朴正熙大統領が誕生しまし

た。その後、国会議員選挙の応援のため、5月25日、木浦から光州へ向かう途中の金大中は、交通事故を装った暗殺未遂事件に遭遇し、事件後、股関節に障害を負うことになりました。その治療のため、金大中は日本で、慶応大学附属病院に通っていました。

1972年10月17日、朴正熙は、国会の解散、政治及び政治活動の禁止など、現行憲法の一部条項の効力の停止などの非常措置を宣布、「維新クーデター」を発動しました。金大中は、日米両国を往復しながら、朴政権への活発な批判活動を展開し続けました。

3 金大中第三の危機

1973年8月8日、朴正熙政権を厳しく批判していた金大中が、東京のホテルから拉致され、海上で暗殺寸前の危機に直面しましたが、国際的な圧力のもとで、九死に一生を得たのです。8月13日午後10時過ぎ、金大中は自宅の前で解放されました。しかし、8月16日から、軟禁状態に置かれました。

韓国中央情報部が、この事件の主役です。

4 金大中第四の危機：「光州事件」

1979年10月26日の朴正熙大統領暗殺事件の直後、事件の合同捜査本部長となったのは、全斗煥国軍保安司令官でした。11月6日、事件の全貌が発表され、崔圭夏が統一主体国民会議によって正式に大統領に選出されました。

1980年2月29日には、金大中を含む684名の公民権回復が行われ、金泳三、金大中、

金鐘泌が次代の政治家として注目され、いわゆる「三金時代」の到来が叫ばれました。各地では、崔圭夏の退陣と早期民主化を求めるデモが頻発し、騒然たる事態となったのです。

1980年5月17日夜、戒厳令が済州島を含む全国に拡大され、崔圭夏大統領が戒厳司令官となりました。全斗煥らは、崔圭夏の裁可を受けて、金大中をはじめとする政治家、学生運動指導者、労働組合幹部を一斉に逮捕。同時に、金鐘泌民主共和党総裁や李厚洛元中央情報部長などの旧政権の幹部も不正蓄財容疑で連行しました。全斗煥・盧泰愚などの「新軍部」が、政治の実権を掌握し始めたのです。

金大中の逮捕は、その政治的基盤である全羅南道、光州で、彼の即時釈放を求める市民・学生たちの蜂起をもたらしました。「光州事件」の開始です。5月18日からの10日間、光州では、空挺特戦部隊と警察部隊による徹底した鎮圧が行われ、死者240名、行方不明者409名、負傷者5019名と数えられています。

「光州事件」は、「新軍部」にとって、金大中への処罰を正当化する絶好の口実となりました。1980年7月4日、戒厳司令部は「金大中一党の内乱陰謀事件の捜査結果」を発表。金大中は、「光州事件」の発端となった全南大学及び朝鮮大学生の街頭デモを引き起こした、としました。金大中は、①内乱陰謀、②内乱煽動、③戒厳法違反、④戒厳法違反教唆、⑤国家保安法違反、⑥反共法違反、⑦外国為替管理法違反の7つの罪に問われたのです。

1980年9月17日の金大中に対する戒厳軍普通軍法会議の判決は死刑。戒厳高等軍法会議への控訴は11月3日棄却。金大中は、11月8日、大法院に上告しました。この裁判に対する関心は、日本、ドイツなど海外で高まりつつあったのです。

「新軍部」側は、1981年1月18日、金大中に、減刑嘆願書を提出せよと説得し、金大中はそれに応じました。大法院は1月23日、死刑判決を下し、韓国政府は即座に臨時閣議を開き、無期懲役に減刑しました。1981年3月2日、大統領に就任した全斗煥は、恩赦により、懲役20年に減刑。翌1982年の年末、アメリカへの出国を説得された金大中は、李姫鎬夫人の意向もあり、結局、出国を決意し、2度目の亡命生活が始まりました。

さて、決起した側からの「光州事件」の真相については、2009年3月16日、光州の全南大学と「5・18記念館」で詳細に見聞し、深く感銘を受けました。記念に頂戴し

た版画の迫力は、圧倒されるほどです。

また、犠牲者の墓地（土葬）2か所を訪ね、哀悼の意を表することができました。

「光州事件」は、韓国民主化の画期的道標です。

【金大中の4度の大統領選挙】

- ① 第7代大統領選挙（1971.4.27）
朴正熙634万票、金大中539万票
- ② 第13代大統領選挙（1987.12.16）
盧泰愚828万票、金泳三633万票、
金大中611万票、金鐘泌182万票
- ③ 第14代大統領選挙（1992.12.18）
金泳三997万票、金大中804万票、
鄭周永388万票
- ④ 第15代大統領選挙（1997.12.18）
金大中1032万票、李会昌993万票、
李仁濟492万票

第15代金大中大統領は、数多くの成果を残しています。初の南北首脳会談（ノーベル平和賞受賞）、日・中・韓の間の多面的交流と友好の促進（日韓共催のワールドカップサッカー大会など）、金融経済危機の克服などは、国際的にも高く評価されています。2009年8月10日、金泳三元大統領が金大中元大統領を見舞い、「歴史的和解」を果たしたことも、印象的です。その直後の8月18日、金大中は死去しました。

（2009.8.19記）

